

独航空見本市に初出展

都が支援の中小共同体「TMAN」

部品加工で受注目指す

東京都は6月1日からドイツで開かれる国際航空見本市「ベルリン・エアショー2016」で、航空機産業参入を目指す団体「Tokyo Metropolitan Aviation Network」（略称「TMAN」）の活動を紹介する。都がブースを設け、団体として初出展する。加工部品を展示することで高い技術力や品質管理力をアピールし、海外の航空機メーカーや部品サプライヤーからの受注を目指す。



TMANに参加する
大和合金（東京都板橋区）、金属技研（東京都中野区）、ウラノ

（埼玉県上里町）、O区）の5社がベルリン・エアショー内で6月1〜3日に行われる「ILAINターナショナル・サプライヤー・センター（ISCC）」に出展する。1社当たり2〜3人ずつ、計十

数人が参加する。国際的なOEM（相手先ブランド）生産企業や1次サプライヤーと直接コンタクトをとり、商談を行う。
TMANは東京都が実施している航空機産業参入支援事業で、15年6月に東京圏を中心とした中小企業共同体として発足。参加企業数は27社（16年3月末

現在）。特殊技術が必要とされる同業界の中でも高い技術力やブランド力を持つ企業が多く、既参入企業が約3分の2を占める。

都の航空機産業参入支援は10年目になる。TMAN発足2年目となる16年はウェブサイト構築も予定するなど支援をさらに厚くする計画だ。都の支援で09年5月に発足した航空機関連部品の共同受注組織「AMATERAS（アマテラス）」は今回は出展しない。